

令和５年度第２回佐倉市青少年問題協議会会議概要

会議名	令和５年度第２回佐倉市青少年問題協議会会議概要
開催日時	令和６年３月１９日（火）
開催場所	執務室等（書面会議）
出席者	西田三十五会長　：佐倉市長 圓城寺一雄副会長：佐倉市教育長 石井健司委員　　：佐倉市副市長 吉村真理子委員　：佐倉市教育委員会教育長職務代理者 佐藤鈴子委員　　：佐倉市こども支援部こども家庭課長 榎本泰之委員　　：佐倉市教育委員会教育部参事指導課長事務取扱 布留川松範委員　：佐倉警察署長 芦澤　俊委員　　：千葉家庭裁判所家庭裁判所調査官 松本博子委員　　：佐倉市民生委員・児童委員協議会理事 石渡康郎委員　　：保護司会佐倉市分会会長 岡本一成委員　　：佐倉市社会福祉協議会事務局 加藤康男委員　　：佐倉市立佐倉東中学校長 佐藤道広委員　　：千葉県立佐倉西高等学校長 木次慎一委員　　：千葉県立佐倉東高等学校長 喜澤雄悟委員　　：佐倉市青少年相談員連絡協議会会長 久保秀一委員　　：印旛健康福祉センター長 山口裕司委員　　：成田公共職業安定所長 藤寄秀秋委員　　：少年警察ボランティア協議会佐倉地区副会長 片岡正臣委員　　：佐倉市青少年育成市民会議会長 佐藤　誠委員　　：佐倉市 PTA 連絡協議会　上志津中 PTA 会長 新田　司委員　　：千葉敬愛短期大学教授 吉森文男委員　　：佐倉市人権擁護委員 事務局　こども政策課 作成者　こども政策課　宮野主査補
傍聴者	なし
議事	※議題となる「佐倉市こども計画」の策定にかかる日程の都合上、「書面会議」の形式として開催しました。 ※書面会議は、委員へ会議資料及び説明等送付し、議事についての意見書を期日までに返送していただく方法によりました。 ※委員からの意見書の取りまとめ日をもって会議期日としました。 □開　会 １　開　会・・・(略) ２　市長あいさつ（略） □審　議

1 (仮)「佐倉市子ども計画」策定にかかるニーズ調査の質問項目について

方針案・策定の経緯について事務局より説明

○佐倉市教育長 圓城寺副会長

意見無し。

○佐倉市副市長 石井委員

意見無し。

○佐倉市教育委員会教育長職務代理者 吉村委員

意見無し。

○佐倉市子ども支援部子ども家庭課長 佐藤委員

ヤングケアラーに関する項目について、以前、子どもの貧困計画の策定に先立ち、市内小学5年生、中学2年生に対し、生活実態調査を行った際、「お手伝い」として肯定的にとらえた回答が多かった、との指摘があったと思う。今回、改めて以下の設問を加えてはいかかが。

「あなたは、ふつう大人が行うような家事や家庭のお世話を日常的にしていますか」

(1 している 2 していない)

A-1、A-2 に追加するとともに、A-3 も、若者ケアラー把握に向けて「ヤングケアラーを知っていますか?…」とともにお願いできればと思う。

○佐倉市教育委員会教育部参事指導課長事務取扱 榎本委員

小学生及び中学生への質問 生活状況 8-5

「友達に引け目を感じる」という表現が、理解できない子どもたちが多いかもしれないという心配があった。例えば、「友達と自分を比べてしまう」、「友達との関係で心配なことがある」といった表現に変えではどうか。

○佐倉警察署長 布留川委員

意見無し。

○千葉家庭裁判所家庭裁判所調査官 芦澤委員

意見無し。

○佐倉市民生委員・児童委員協議会理事 松本委員

意見無し。

○保護司会佐倉市分会会長 石渡委員

資料 4-1 番号 11、12 見出し不記載

番号 12 選択肢 1、通いたい () の意味

番号 14 設問内容 「下の中から」とは何

選択肢 16 とくにない 17 その他 () 順番は適切か

番号 15 番号 14 と同様の疑問

8 とくにない(理由:) は必要か

番号 8、9、21、24 その他の () への記載がない

資料 4-2 4-1 と同様の疑問である。

資料 4-3 4-1 と同様の疑問であるが、番号 9 については選択肢 14、15、16 の順番の決め方は適切か。

○佐倉市社会福祉協議会事務局 岡本委員

意見無し。

○佐倉東中学校長 加藤委員

小・中学生への調査項目については特に問題はないと思う。青少年への調査項目の中にひきこもり、不登校についての内容があったが、調査対象 900 人とあり、どのように調査対象者を抽出するのかが気になった。また、小・中学生 600 人というのは、どのように対象を選ぶのかも気になった。

小・中、若者も含めて、不適応やひきこもりが増えていると思うので、実態を把握し、対応していかないと問題は深刻化していくと思うので、実態把握はとても大切であると思う。

○佐倉西高等学校長 佐藤委員

アンケート項目は良いと思う。個別の具体的な対応をどうするかが大変だと思う。

○佐倉東高等学校長 木次委員

資料 4-3 番号 10 選択肢 1、学校・職場 2、部活動・サークル 3、家庭

→ 1、家庭 2、学校・職場 3、部活動・サークル

小・中と揃えることや、居場所は一義的に家族（自宅）であるべきと思う。

○青少年相談員連絡協議会会長 喜澤委員

学校（社会）生活で学ぶ事と家庭生活で学ぶ事があると思う。小学生の時は親が関わっているが、中学生以上になると、関わりも少なくなってきた最近この時期にしっかり学ぶ事が難しくなっているように感じることもある。スマホ、交通環境、自転車の乗り方など、高齢者の対応（道徳的な事）、保護者から教える事が、コミュニケーションがどうなって（どのような状態）いるのか知りたい、と思うことがある。家庭でのコミュニケーションについて設問があっても良いかと感じた。

○印旛健康福祉センター長 久保委員

意見無し。

○成田公共職業安定所長 山口委員

意見無し。

○少年警察ボランティア協議会佐倉地区副会長 藤寄委員

意見無し。

○佐倉市青少年育成市民会議会長 片岡委員

意見無し。

○佐倉市 PTA 連絡協議会 上志津中 PTA 会長 佐藤委員

全体として調査項目で得たい情報、又はその情報を活用して可視化したい状態が見えていないので設問が適正か判断できない。

感覚で申し訳ないが、設問の傾向が負の洗い出しが多いように感じる。弱者救済の考慮は大切であるが、こども達の成長を支援するポイントを探る事も大切だと思う。好きなこと、希望・夢に関すること、それに対し支援・応援してほしいことを聞いても良いのではないかと思った。

例えば、「外国にルーツを持つこども」に関する設問について、いきなり困ったことを質問しているが、完全に負に傾向している。良かったことも併せて質問したら良いと思う。言語、文化、食、身体能力、こども達は身近に世界を知る機会を得ている。悪いことばかりではない。

こども家庭庁から画一的なアンケート項目が出されていないようで、調査項目の

策定に苦慮されている状況かと思う。近隣市町村との情報連携も有効だと思う。佐倉市が策定する計画が、こども達の成長を促す計画となることを期待している。僅かであるがこの計画に携わる機会が得られたこと嬉しく思う。

設問に対する意見

設問２：公立学校以外の選択肢も用意する

設問８：複数選択が好ましい

設問１２：選択肢１の（）に記入する内容説明（想像はつきますが）

設問１６：選択肢に「その他（）」があった方が良い

設問１７：度合いが不明（話をすることがある、あいさつ程度まで、顔はしている、顔も知らない）

○千葉敬愛短期大学教授 新田委員

小・中学生の調査について、身の回りの世話をしてくれる人が誰かを尋ねてはどうか。例えば、回答がきょうだいであれば、世話をしてくれる子がヤングケアラーである可能性があると思う。

また、親でない場合、ネグレクトの可能性もある。ただし、家族構成まで問いていないので、あまり厳密な結果は取れない（可能性であれば、家族構成も聞けるといいと思う）。

○佐倉市人権擁護委員 吉森委員

意見無し。

□ 閉 会・・・(略)